觀照

石割松太郎遺稿

幕内祕錄

同人合評會

春の能と歌舞伎

昭和二十四年四月

21

昭和二十四年五月十日印刷
昭和二十四年五月十五日發行
（毎月一回一日發行）

幕内秘録

石割松太郎（遺稿）

この記錄は昭和二十四年三月、故鴻池幸武氏の所藏書籍の整理に當つた時、本箱の中から發見したもので、石割松太郎氏の未發表原稿に鴻池氏がその續篇を書き加へてゐる。鴻池氏の跋文に依れば「昭和十一年六月廿九日先生死去遺物分けの際小生貰ひ受け」たものとなつてゐる。今般未亡人の許可を得て發表することゝなつた。石割氏の遺稿としても、劇壇裏面史としても、興味深いものと思ふ。

ハシガキ

何となく耳にした幕内の話で、發表の出來ない面白いこと、をかしいこと、劇壇の出來事を書いておく。信憑するに足らぬ咄はこゝには書かぬ。これがこの手控の値と見るべきだ。

思ひ出すまゝを昭和二年師走の除夜に認め、次にはその時〳〵に認める。

◇魁車

中村魁車の妻女谷よし（五二）中井櫻洲山人の妾なりしことあり。庶子あり、原籍は東京淺草區北清島町七九杉原庄左衞門養子となりをり松原豊（三七）といふ。秋田刑務所に在監、よし女この子で苦勞する。これは大正十五年の事と思ふ。

◇鴈治郎對羽左衞門

成駒屋鴈治郎が大阪では王者のやうな役者中では友達あつかひをするものとてないが、東京へ行くとさらはならず、人の悪い羽左衞門の如きボンと鴈の肩を叩いて、林、（呼び捨てだ）てんぷら喰ひに行かうかといつた調子。大阪俳優これを見てハラハラするもの、憤慨するもの、内心痛快がるもの、いろ〳〵だ。

◇延若

實川延若人の眞似すること巧みなり。舞台の人の癖をとつてよく眞似て薩口叩く癖あり。東京の樂屋でいろいろと成駒屋始め皆々の癖を事面白く話してゐる。人の悪い市村など次の幕にからだがあくからつゞきを聞かせてくれよといつた調子で、まるで幇間だ。あれだけの役者がなと神經にするのが白井松次郎、延若を東京へやるとこれが身を切るやうだといふ。

◇　五郎と延若

この延若の態度を聞き見て一日五郎(曾我廼家)大阪讀賣で怒る。が、これも一つの宣傳好きの五郎でどの點まで怒つたのか分らぬ。

◇　鴈治郎

大阪の成駒屋は白井と携提の時に、親類つき合といふことになつて、身上もハツキリせず、借金もハツキリせず。これが白井式。而して白井は成駒屋には三十六萬圓貸してあるといふ。一例が天下茶屋に俳優が家を建てる事の競爭時代があつた。鴈も土地を買うたが、鴈は家を建てずじまひ、この地所誰のものとも分らず松竹の納屋が建つたまゝだ。

◇　大阪役者と別莊

この時に金があつて家を建てたのが嚴笑、金がなくて見得で建てたのが雀右衛門の內儀、魁車はこの風潮に乘りながら借家住ひにほどなく大寶寺町心齋ばし東へ入ル南側へ引越し後桂家へ入る。この家を中心にしての各優の態度が、その舞台を現はしてゐる。

◇　白井松竹

成駒屋の台所は全く白井が切もりしてゐるだけに、鴈百年の後は貸借は分るまい。あれだけ働いても鴈は何も殘るまい。こゝが白井のうまいところ。白井式。それで親類つきあひといふ。少し自分の都合でいつも久しい友達やおまへんか水くさいと外の人にいふのがこの傳だ。

◇　おぜんと霞亭翁

だから、鴈百年の後を思うて鴈の內儀のおぜんゐたゝまらず、一夕霞亭翁をとひ、內の人が死んだら子供などどうなるか分らぬからとて長三郎を小間物屋にしようかと相談。これをその席にゐ合はして聞いたのが中井浩水。

◇　鴈治郎父子

鴈は長三郎を、おせんは扇雀を遍愛する。それで兄弟競うて鴈にゴマをするといふ家庭だ。あさましい事夥しい。

◇　鴈の末娘

鴈の末娘、返ねかへりもの、どこかの私塾で英語をかぢつてる。鴈は女子大學だと思うてゐるなど面白しこの娘、人に逢ふての挨拶に「妾は扇雀の妹です」と自己紹介。扇雀といふ處面白い事だ。

◇　鴈治郎とおあさ

お淺——鴈の新町の妾——に鴈の床の樣子を聞くと、初めは毎夜來やはりましたがこの頃では月に五六度

ですといふ。それが鴈の六十九の昭和三年の事だ。この話は音羽家の番頭イボ市の實話。

◇ おせんと我童の妻女

昭和三年の春？新町のお妾の姉常磐津の松壽花の淺への時、お淺に出來た鴈の娘が常磐津を語る。おせん知らず、八千代座へ古娘連中で見物我童の妻おむつ何の氣なしにけふとうちやんのお淺へにお越しやありませんかといふ。おせん急に眉を逆立て、内のとうちやんといはれるもので常磐津をやるものありませんと大の不機嫌におむつ驚く。この夜扇雀がこの常磐津會へ行かうとて一寸カツフエーへといつたので又當こすられ、さすが扇雀閉口したといふ。

◇ 鴈夫婦

鴈とおせんの夫婦中はこんなで極めてやつかいなさうだが。で、鴈も夫婦さし向ひにゐる事を厭ひ、本宅にゐるときは人が行くと中々歸へさぬ。夫婦さし向ひの時に他人がゐればゐたまらぬといふ風だ。これおせんのやきもちのためだ。

◇ 古娘連中の噂聞

昭和三年六月角座で我童扇雀の二部興行で、時鳥殺しの出た時、古娘連中の總見あり。恰も隣棧敷で私が見物、この時のおせんの話によると全く、前項の鴈と夫婦さし向ひがこの數年間ありませんと話してゐたを小耳にはさむ。歸ると十二時すぎ床へ入つて、おせんが行く時分には寢てゐる。おせんは朝寢、起きるともうゐない。半月も一月も物をいつた事のないなど珍しからずと愚痴つてゐた。この時の古娘連中はおせん、福助の鶴羽、魁車のおよし、我童のおむつ、巖笑夫妻、扇雀のおきし、心齋はしの藤井の婆々、高津湯豆腐屋の女將といふ顔ぶれ。

◇ 歌右衛門

上方の成駒屋のこの樣子に引かへ東京の成駒屋はどうして〳〵、俳優組合に七萬圓といふ金があるから役不足の時は何とかゴテてそれなら松竹が明ければ私の方で歌舞伎座は明けますよといつた風、大谷は常にこれに閉口させられてゐる。その上に組合の金を作るため昭和二年二十日？に東京俳優盡く名あるものをかぶき座にあつめて組合組織變更の基金を集めた。俳優に金が出來ること仕打の困難。兩成駒屋の相異雲と泥。

◇ 鴈と歌と「南部坂」の咄

いつか兩成駒屋の顔合せがかぶき座にあつて、「南部坂雪の別れ」の出たことがあつたが、この幕切を鴈は自分で切らうとする。歌右衛門は窓のところまで見送らうといふ。ど

うにもならぬ。歌は脚本を見ろといふ。默阿彌の台帳にはたしかに若い切髪の女を出してある。これでは鴈が納らぬ。稽古までこのまゝに押通しグズ〳〵にする。イザ初日となつて何れも納らぬので木村錦花大汗。錦花魁車を使うて鴈を押へる。魁車これで錦花に鳥料理を御馳走になつたと魁車の直話。

◇ 越路の死後の借金

松竹の白井氏、藝人に貸した金を生かすこと名人。越路太夫の病氣、且つ金の勘定を知らぬ男として借金だらけ。十三萬圓あつたといふが、このため妻女たまの家であつた新町の河内屋跡を家質に入れる。これを十三萬圓に賣つてやるといふので、おたまさんは少し浮したく思ひ返事を澁つてゐる内に二ケ月すぎたので、もう賣れぬといひ九萬圓にうれたから三萬圓はまけてあげようが、一萬圓を新たに大目橋でおたまがやつてゐる旅館に新しき家質をつける。それで河内屋跡の新町の家は高砂屋、(お茶屋の)に十三萬圓に賣つてゐるのだといふ風。

◇ 京家の借金

京家のあとがこの流儀であつたが、魚利が親戚で金を出さうといふので筆者が話をつけてやる。勘定高い白井氏だとつく〳〵この時に思つた。

◇ 南部太夫

松竹は藝人が死ぬと屹度外に借金がいくらあるかとすぐ死骸のあるうちに聞きにやる。これは松竹に借金のある藝人に對してゞある。借金がない人だと日殘りをすぐに調べてとりにやる。南部太夫は隨分松竹のために働いた男、そして文樂座を松竹へ賣るやう橋渡しをしたのが南部だつたが、死んだ時に、その日にすぐに日殘りの勘定を傳達して來たのにゐ合せた人驚く。これは土佐太夫の見聞談。

◇ 越路の死後の跡始末

越路のあとが右のやうで一萬圓の借金が殘つた時に勘定に來た多田福太郎が、まだきまらぬ間の河内屋の家賃月三千圓づゝ三年間分のを松竹がとつてゐたから、これを引當てにたのむと、利子もないのだからそんな水臭い事をいふと子供のためにならぬとて、遂にソレなり鳧で終る。越路未亡人の泣寢入り物語り。

◇ 卯三郎

伊丹幸の隱居の天下茶屋別莊を中井浩水が買ひ、後辻梅の妹お金さんに賣る。これを音羽家の卯三郎が買つて、地所も買うたがこれは松竹が金を出した。給金を渡すときまつて一日も遲れず一回の不承もなく金を持つて來たのが卯三郎で、その性格が出てゐる。(未完) (嗣出)

照觀

實驗劇場として東京にピカデリー發足す。三越劇場の新劇祭も一應成功す。どうやら新劇といふ月足らずの虚弱兒童も小學校へだけは入れた感じだ。現代劇の確立は六三制にしても先の遠い新制大學級のことぢやらうて。（委員長）

◇

國立劇場はどれへ行た？　われわれはその方を貰うつもりぢやつたのに。（カブキ新派部長）

◇

能樂の方は燒け殘り舞台のほかに社寺舞台もあるし、關西能樂會館も出來ますけれど、何ンせ國寶藝術なんですから、考へて貰ひたいもんですネ。（家元聯盟）

◇

能ではないといつていた新樣式能が「春の會館能」になつた。朝日遂に本流能を見棄てる。（苦沙彌）

◇

その代り映畫からはどん〳〵買ひに來ます。白粉も惡ひものではありませんよ。（黑右衞門）

◇

さうかと思ふと女優のやうな女流師範も賣出して來た。（歎世差近）

◇

行く氣なしにのぞいた歌舞伎座、「五條橋」とは何のことない、ムク犬とチンコロのヂレあひぢや（米屋町）

◇

そういへば、内に飼つてゐたテリヤは鴈治郎そつくりだつたよ。（人犬ヂユーリン）

◇

成駒屋ファンのおうちと見えますナ。（番頭）

◇

芳子の念願漸く叶つて五月の新生新派に加入「須磨の仇浪」で歸り咲くさ。子供を產んだゞけでもおヤヂよりましだらう。（吉之助）

◇

それといひ、去年の「琵琶歌」といひ、柳生、猫と小出しにせず「松次郎一代記」を出したらどうぢやいな。（假亨）

◇

お涙頂戴なら、この一代記の挿話の方を主にして書くことだ。（白井の仇浪）

◇

文樂組合側の幹部、紋十郎を三門博が買ひに來てゐるといふぢやないか。多年の宿望叶つて浪花節で人形を遣つてみるか、觀音經のクドキは見ものだネ。（天狗ペン）

◇

千本の四の切の朱が覺えられない

ので病氣と稱して綱造が休み、八造がトチツテ「八幡山崎」がモラヒになつた日があるなど文樂座因會の輕重を問はれる事件が相つぐ。(段平)

◈

組合側はそんなヘマはやりまへんと――ソ、それ〳〵〳〵直ぐつけ込んではいけません。(書記長)

◈

綱太夫の組合脫退は師に殉じ、意地より藝を重んじた豫定の行動。藝に生きる以上咎められまい。(困會)

◈

文樂組合と因會との合同に山城が調印を拒んだために流れたといふ。(新大阪)委任狀を出せば同じ事ぢやないかといふが、かういふ非常事態なら、そこまでこだわらなくともいいではないか。自分の代に文樂を潰したくないといふ山城とは。(杉丸)

◈

山城の肚はあんな文樂なら潰してしまひたいんだよ。(彌八)

◈

文樂は三月興行にも東京興行にも千本櫻の通しを出したのはよいが、やり方は文字通りてんやわんや。二段目の次に道行が据るなどはまだよい方で、四段目のやかましい狐の段を掛合に割るなどは言語道斷だ。太夫陣の貧困もさることながら、狐亂れの段といふ場割には恐縮の他はない。いつそ文樂亂れの段としては如何。(氏家巨美)

◈

文樂の勞組問題も藝の問題を別にして、いつまでも騷ぎ立てゝゐるけれども、又綱太夫が勞組を脫退したり、因會側が東寶と提携して單獨興行をしたり、そのたび勞組側が抗議したり、聲明したり、資本側もしたり顏をしたり、したりやしたりといふ大騷ぎ。大体人形芝居が文樂座一本でなければいけないやうに考へるのが大間違ひ。竹豊二座の昔から數座の對立は引續き、文樂彦六、文樂明樂の對立も最近までの事だ。勞組側も文樂といふ名稱に戀々とせず、他の座名をつけるがよい。それが藝の發展にも寄與するのであらうから(にたり〳〵)

◈

前進座の共產黨入りも、學校巡回に行つまつた彼等が、新しい職場を勞働組合に求めたのだと考へれば、前進座の勘定高さとつじつまが合ふだらう。何しろ軍閥時代には第一番に國策に順應した彼等だし、戰後にはいちはやく反ファッショ劇を上演した彼等であるから、それ位の目先は、そこいらのお立合よりは利きますさ。(にたりよつたり)

觀照